



第395号

「がんばろう、日本！」  
国民協議会  
機関紙

発行所「がんばろう、日本！」  
国民協議会

発行人 戸田政康  
編集人 石津美知子

http://www.ganbarou-nippon.ne.jp

(東京事務所)  
東京都千代田区九段北4-3-16  
サンライン第14ビル6階 〒102-0073  
TEL 03(5215)1330  
FAX 03(5215)1333

(発行所)  
東京都東大和市南街2-17-16  
パピルス会館 〒207-0014  
TEL 042(566)2950(代)  
FAX 042(566)2949

# 民主主義の機能不全なのか 民主主義のイノベーションなのか カオスを突き抜ける！

民主主義の機能不全

↓強いリーダーシップなのか

↓民主主義のイノベーション

↓自治分権・フォロワーシップの深化なのか

橋下大阪市長の「快進撃」が続いている。永田町がその前に右往左往する一方、橋下氏の政治手法をポピュリズムと批判する声もやまない。しかし、「人民の敵」を名指して人々を動員する(ポピュリズム的)スタイルの「強いリーダーシップ」もそれに対するポピュリズム批判も、日本政治が直面する迷走と閉塞を打開することはできない。橋下旋風に対する世間の目が、永田町とは違ってどこか醒めているのは、そのことを感じ取っているからではないか。

東日本大震災からの復興、税・社会保障の一体改革、TPP交渉、電力・エネルギー問題など、目の前には日本の将来を左右する喫緊の難題が横たわっている。にもかかわらず、この国では「決められない政治」が続いている。少なからぬ国民は政権交代後の迷走を、政権交代

時代を迎えた「育ちの苦しみ」と思い、多少の混乱はやむをえない、と考えた。しかしこの期に及んでも「決断できない国会」が続くとはい…。

問題の所在は政策以前にある。国家の基本的な意思決定を果たせない、政党を含む統治システムの現状だ。これは「抵抗勢力」を打倒したり、古いシステムを破壊すれば解決するという問題ではない。

「民主党政権が最初に迷走した一因は、国家の意思決定システムを躍動する生き物として捉えられなかったことにある。首相や政権与党という機関を身にまとう前から、ロクな診察もせず手術内容を決定していた。国家戦略局や閣僚委員会の設置、事務次官会議や党政調会の廃止、政務三役の超過労働などだ。案の定、人工的な切除や移植で人体に拒否反応が続出した(村井

哲也 日経ビジネスオンライン 1/30)

「新しい政治」を標榜して与党の座に就いたはずの野党が、いつの間にか「古い政治」の論法を繰り広げる様を私たちは嫌というほど目にするようになった。略々随所に見出すことができる変貌の原因を『空気』という曖昧模糊とした言葉で表現するだけでは、もはや誰も納得することはできないのではない

か。略々不可視の領域を含む統治の全体像を念頭に置かないままに、これらのプロセスの一部だけを闇雲に入れ替えたとしてもそれはやはり過去の轍を踏むだけだろう(西田亮介「統治」を創造する「序章」)

しかし。問題の所在は、統治システムの現状をどうとらえ、その変革にどう参加し、引き受けるのか、とどうとらえているのか、それによって「決められない政治」への立ち位置も変わってくる。

「統治システムの問題だ」というところに「突き当たる」だけ、あとは「向こう側」の問題だ(自分たちが引き受けること

ではない)となるのか。ここから見える風景は、混乱・混迷、停滞・閉塞だろう。ポピュリズムに動員される側も、ポピュリズムを批判する側も、見えてくる風景は基本的に変わらない。

他方で政権交代あるいは自治分権や社会的起業などを通じて、「参加する政治」さらに「引き受ける政治」へと歩を進めてきた側には、「統治を創造する」入り口が見えてきた。それは混乱ではなく、古い常識の瓦解のなかから何かが生まれてくるカオスだ。

「決められない政治」は、民主主義の機能不全に起因するのか、その処方箋は「強いリーダーシップ」なのか。それとも民主主義のイノベーションの機会であり、「参加する」から「引き受ける」へというフォロワーシップの深化なのか。

新しい常識を準備してきた側の問題設定は、行動的に加速している。一月七日の第七回大会シンポジウム第二部でも、30代市長がそれぞれ、市民が行政に自分の利害を持ち込む「市民参加(容れられなければならない市役所が悪い)で終わり)ではなく、市民自らが地域の異なる

自治分権 調動手に 手調分治利

速変しるがきき…

(発行所)  
東京都東大和市南郷2街-17-16  
パピルス会館 〒207-0014  
TEL 042(566)2950(代)  
FAX 042(566)2949  
〈郵便振替〉00160-9-77459  
「がんばろう、日本!」国民協議会  
ゆうちょ銀行 019店 当座0077459

**1部 300円**  
半年2,000円  
一年3,500円  
**定期購読**

**今号の紙面**

- 2-4面 一灯照隅(地方議員のコラム)
- 5-6面 インタビュー  
「原上達也・東海村村長に聞く  
講演会「TPPと消費税」  
山下一仁氏/大野元裕参院議員  
インタビュー  
中国新指導部の課題」  
吳寄南氏に聞く
- 7-12面
- 12-14面

利害を調整・合意する「市民自治」の試みが提起された(自治分権の新しい常識の可視化)。

社会が多様化するほど、調整・合意プロセスには時間も手間もかかり、妥協も繰り返される。そのプロセスを「お任せ」にして、望んだこと違う結果を批判するだけの「参加」なのか。それとも、面倒くさい調整・合意プロセスと妥協の結果を「引き受け」て、さらに次へ進むのか。

新しい常識は、さまざまな領域で(認識一般ではなく)カオスを突き抜ける行動として可視化され、相乗的に深化しつつある。その、よりいっそうの加速化と拡大を!

**「参加する」から「引き受ける」へ  
カオスを突き抜ける  
統治を創造する**

3.2は新しい統治に向けた動きを顕在化させた。「戦後日本」が瓦解し、古い常識が液状化する一方で、臨界質量を越えた新しい常識が、そこそこで社会を変え始めた。それらをさらに加速化し、十分に連携・接合していくために何をなすべきか。

前出「統治を創造する」(春秋社)で、西田亮介氏はこう提起する。「日本社会では繰り返す『新しい政治』『新しい方法』が取り上げられるにもかかわらず、『成果』はどこか腑に落ちないものであり続けてきた。どうやら『新しい技術』を素朴に

古い常識にとどまったままでは、見えるのは政治不信と閉塞感、政党政治の危機だ。確かに、ここから一九二〇〜三〇年代の失敗を危惧することもできる、その危険がまったくないわけでもない。

しかし、「国家の意思決定システムは躍動する生き物」である。今を生きる私たち自身が主権者としてそこに参画し、決定を引き受けることで、その躍動はさらにダイナミックなものとなる。それを「向こう側」に「お任せ」したままでいいのか。少なくとも3.2以降私たちは「自分たちのやれることをやろう」と、「引き受け」始めたのではないだろうか。

給不足が懸念され、なし崩しの原発再稼働や電力料金値上げなどに、論点が拡散しかねない。これでは新しい統治への転換は、かすんでしまう。

例えば、電力・エネルギー問題の選択肢のキモは何か。原発の是非では、もちろんない。では選択肢は、エネルギーのベストミックスなのか。核燃料サイクルも含めたエネルギーミックスのシナリオを国民的議論の選択肢として示す、というのが政府の方針だ。しかしエネルギーミックスは、選択肢ではない。選択肢は、電力・エネルギーシステムを変えるのか、否か。変えるなら、どう変えるのか、ということであるはずだ。

現状の独占・垂直統合・集権的システムのままなら、エネルギーミックスがどうなるかと、相変わらず「中央で決めて制御する」仕組みのままである。そうではなく、自律分散型システムに改革して、ユーザーが選択できるようになった結果、エネルギーミックスはこうなった、ということなのか。原発依存の軽減、再生可能エネルギーの増大を実現するにしても、ガバナンスの経路はまったく違うものになる。どちらのガバナンス、システムを選択するかということこそが、われわれの選択肢ではないのか。

「原発事故とその後の対応によって、独占・垂直統合・集権的システムの信頼は失墜した。信頼を失った仕組みのままでは、原発ゼロの電力問題は、うちもさっちもいかにどこに追い込まれている。昨年夏の節電は、需要家が一致団結して節電・ピークシフトに励んだ結果である。そのポイントは自律分散型のシステムへの転換であり、だからこそ今夏に予想される電力不足についても、よりいっそうユーザーに十分な情報を公開し、節電のインセンティブを与えるこ

とが喫緊の課題だ。

「震災直後の『計画停電』や今夏(2011年)に予想される電力不足に対して、企業も家庭もさまざまな対策を講じ始めた。中略(これらは)緊急対策の色彩が濃厚だが、上述の(集中電源・中央制御を特徴とする電力供給システムで支えられた電力多消費社会から、省エネと再生可能エネルギーに支えられた分散型ネットワーク社会への移行という)方向性と合致しており、その萌芽的変化として位置づけられる」(諸富徹「原発を終わらせる」岩波新書 石橋勝彦・編)

独占・垂直統合・集権的システムなら、電力の需給調整は政府の独占的仕事である。しかし自律分散型・ネットワーク型システムなら、需給調整はユーザーの自律性に任せられ、政府の役割はオープン・グリッドのためのインフラ整備(発送電分離や公正な市場の整備など)ということになる。

「近代社会であっても、特に日本人々は親族や社会の関係性の『グリッド(網の目)』の中に埋め込まれており、危機にはその伝統的な網の目が良いつながりやを促進した。しかし現在の高度技術社会では、人々の関係性は生活の基盤となる電力や石油供給などの『グリッド』の上に形成されており、そのグリッドがどういふルールで作られるかに大きく左右される。中略(この『グリッド』の作り方、その基本思考こそが、復興計画の方向性を決めるキーワードだと私は考える。問題の本質は、グリッドが人々や企業の行動を拘束する『グリッド・ロック』の状態になっているか、それとも人々や企業がそれぞれの場所と時点で必要とする財・サービスに賢く対応し、利用者と供給者の相互作用によって効率的に

## □日程のお知らせ□

- ◆「日本再生」読者会  
4月8日(日) 午前10時より 「がんばろう、日本！」国民協議会事務所(市ヶ谷)
- ◆北九州「日本再生」読者会(会費 500円)  
4月14日(土) 午後3時30分より 小倉商工会館
- ◆大阪「日本再生」読者会(会費 500円)  
4月9日(月) 午後7時より 天満橋 エルおおさか
- ◆京都・青年学生読者会(会費 無料)  
4月11日(水) 午後7時より 同志社大学寒梅館

\*\*\* 以下は事前のお申し込みが必要です \*\*\*

□第111回 東京・戸田代表を囲む会 4月10日(火) 午後6時45分より  
「税と社会保障の一体改革～合意形成プロセスからみえてくるもの」  
ゲストスピーカー 小川淳也・衆院議員

□第112回 東京・戸田代表を囲む会 4月25日(水) 午後6時45分より  
「エネルギー政策は、気候変動政策と統合せよ」  
ゲストスピーカー 一方井誠治・京都大学特定教授

□第113回 東京・戸田代表を囲む会 5月21日(月) 午後6時45分より  
「社会運動の立ち位置～“参加する”から“引き受ける”へ」  
ゲストスピーカー 湯浅誠・自立生活サポートセンター・もやい事務局長

◆いずれも 「がんばろう、日本！」国民協議会 事務所(市ヶ谷)  
会費 同人 1000円/購読会員 2000円

□第22回 関西政経セミナー  
「自治分権とmanifesto運動の深化・発展」  
4月16日(月) 午後6時30分より ハートピア京都4階会議室  
田中誠太・八尾市長、諸富徹・京都大学教授、中小路健吾・京都府議 ほか  
会費 1000円/学生 500円

□総会(第六回大会第一回) 5月12日(土) 10時より18時  
「がんばろう、日本！」国民協議会 事務所(市ヶ谷)

■問い合わせ 03-5215-1330

資源を使う『新世代のグリッド』  
になっていくかどうか、という  
根本的な違いである」(「オープン  
な協働を促進する『グリッド  
2』に移行せよ」今井賢一 日  
経ビジネスオンライン2011/5/19)  
新しい統治の創造もまた、「躍  
動する生き物」にほかならない。  
それは無機質なシステムではな  
く、常に時代の変化にさらされ、  
多様な主体の相互関係の葛藤の  
なかで試行錯誤しつつ、漸進的  
に進んでいくプロセスそのもの  
だ。政権交代が定着するとは、  
時代の変化に対応するために葛  
藤するプロセスのなかから、リ  
ーダーとフォロワーが鍛えられ  
ていくことにほかならない。

1面から続く

らも、まちづくり・地域プラン  
ドの領域からも、ITやオーパ  
ンガバメントの領域からも、そ  
の他社会活動のあらゆる領域か  
ら、このカオスを突き抜ける主  
体が次々と生まれ、民主主義の  
イノベーションを起すプレー  
ヤーとして、駆け出している。  
新しい統治を創造するために、  
「参加する」から「引き受ける」  
へ。カオスを突き抜ける！

## 「がんばろう、日本！」国民協議会 第七回大会 報告集 発刊！

### 自治分権・オープンな協働を促進するための 新しい多数派形成を

●発刊にあたって/基調

●記念シンポジウム

第一部「開かれた凌ぎの時代の外交戦略とは」

中西寛・京都大学教授、大野元裕・参院議員、戸田政康・代表

第二部「自治分権の深化と拡がり～古い常識から新しい常識へ」

山中光茂・松阪市長、熊谷俊人・千葉市長、望月良男・有田市長

隠塚功・京都市議、諸富徹・京都大学教授

●資料編(パネラーのインタビュー記事ほか)

一部 700円(送料80円)/郵便振替 00160-9-77459「がんばろう、日本！」国民協議会

■問い合わせ 03-5215-1330